



## まもなく開幕！

開会式情報、主要作品解説、特別協力展示(マツダ株式会社、広島市立大学)について情報を追加しました。

会 期:平成26(2014)年

11月18日(火)～12月23日(火・祝)

会期中無休

開館時間:9:00～17:00

※金曜日は19:00まで ※入館は閉館30分前まで

※11月18日(火)は10:00開場

料 金:一般 1,200円 (1000円)

高・大学生 900円 (700円)

※中学生以下無料

※( )内は前売・20名以上の団体料金



- ・JR広島駅より約1km ・広島城より約400m
- ・市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車約20m
- ・ひろしまめいぶる～ぶバス「県立美術館前」下車

名勝「縮景園」とともに歩む アートの社  
**広島県立美術館**  
Hiroshima Prefectural Art Museum  
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246  
http://www.hpam.jp/ FAX(082)223-1444

## 【開会式について】

次の通り、「榮久庵憲司の世界展」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

**日時／平成26年11月18日(火)午前9時30分～**

**場所／広島県立美術館 3階企画展示室 入口ロビー**

### 1 開会の辞

### 2 主催者紹介・挨拶

- ・広島県知事 湯崎英彦(紹介・挨拶)
- ・広島県立美術館 館長 越智裕二郎(紹介)
- ・テレビ新広島 代表取締役社長 箕輪幸人(紹介)
- ・GKデザイン機構 代表取締役社長 山田晃三(紹介)
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷義則(紹介)

### 3 作家紹介・挨拶

- ・インダストリアルデザイナー 榮久庵憲司 様(紹介・挨拶)

### 4 特別協力者紹介

- ・マツダ株式会社 代表取締役 副社長執行役員 丸本明 様(紹介)
- ・広島市立大学芸術学部 学部長 前川義春 様(紹介)

### 5 協賛者紹介

- ・広島県信用組合 会長 吉田貞之 様(紹介)
- ・株式会社オーエイプロト 代表取締役 大坪義彦 様(紹介)

### 6 テープカット

- ・インダストリアルデザイナー 榮久庵憲司 様
- ・広島県知事 湯崎英彦
- ・マツダ株式会社 代表取締役 副社長執行役員 丸本明 様
- ・広島市立大学芸術学部 学部長 前川義春 様
- ・広島県立美術館 館長 越智裕二郎
- ・テレビ新広島 代表取締役社長 箕輪幸人
- ・GKデザイン機構 代表取締役社長 山田晃三
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷義則

### 7 閉会の辞

司会／テレビ新広島アナウンサー 石井百恵

( 内 覧 )

### 【展覧会概要】

榮久庵憲司は、インダストリアル・デザイン(工業デザイン)のパイオニア。その作品は幅広く、卓上醤油瓶から新幹線まで「これもそうだったの!?!」と思うほどです。また、イタリアから、デザイン界のノーベル賞ともいわれるコンパッソ・ドーロ(黄金のコンパス賞)国際功労賞を授与され、国際的なデザイン振興の面でも高い評価を受けています。その彼の活動の原点は被爆直後の広島。焼け野原に立った彼は、美しい道具を沢山の人に届けるという目標を見つけました。この展覧会では、「アート」と「ものづくり」、二つの垣根を取り払い、戦後日本のデザイン界の創建と国際化に尽力してきた榮久庵憲司の世界を多角的にご紹介します。

### 榮久庵憲司 略歴

- 1929年 東京に生まれる
- 1942年 東京府立第五中学校(現在の東京都立小石川高等学校)に入学
- 1945年 海軍兵学校に入学
- 1945年9月 福山市に転居。広島県立福山誠之館中学校 (現在の広島県立福山誠之館高等学校)に編入
- 1947年 広島県立福山誠之館中学校卒業
- 1955年 東京芸術大学卒業
- 1957年 GKインダストリアルデザイン研究所設立、所長となる
- 1967年 日本万国博覧会会場計画委員会に参加  
「サイン計画」「ストリート・ファニチャ計画」「モノレール計画」などを担当
- 1970年 日本万国博覧会開幕に伴い「ストリート・ファニチャ」統括責任者となる
- 1970年 (社)日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)理事長
- 1973年 第8回世界インダストリアルデザイン会議実行委員長
- 1975年 国際インダストリアルデザイン団体協議会(ICSID)会長
- 1979年 ICSIDコーリン・キング賞受賞
- 1985年 国際科学技術博覧会会場施設デザイン専門委員
- 1986年 95ひろしまは変わる10万人委員会副会長
- 1988年 広島市現代美術館美術品等選考委員会委員
- 1989年 世界デザイン博覧会(名古屋市)総合プロデューサー
- 1989年 東京都デザインアップ委員会委員長
- 1992年 藍綬褒章、通商産業省のデザイン功労者表彰
- 1993年 戦後50周年記念事業(旧被服市廠建物活用)検討委員会委員(広島県)
- 1995年 国民文化祭基本構想検討委員会委員(広島県)
- 1995年 瀬戸内海文化博物館構想策定会議座長(広島県)
- 1996年 英国ミシャ・ブラッグ賞受賞
- 1997年 フランスより芸術文化勲章受章
- 1998年 世界デザイン機構(Design for the World、本部はバルセロナ)を設立し初代会長に就任
- 2000年 勲四等旭日小綬章受章
- 2003年 ラッキーストライク・デザイナー・アワード受賞
- 2004年 フィンランド獅子勲章コマンドー章受章
- 2005年 広島国際大学客員教授に就任
- 2014年 イタリアよりコンパッソ・ドーロ国際功労賞受賞



Photo by Yoshiaki Tsutsui ©AXIS

### 【展覧会構成と内容】

#### 第1章

##### 茶碗から都市まで

戦後日本の産業社会の発展をデザイン界から切り拓いてきた榮久庵の活動を、彼がデザインした作品を通じて振り返ります。戦後の高度経済成長とともに歩んだインダストリアルデザインの歴史を辿りながら、故郷広島の「ものづくり県」としての発展にも、デザインの分野から貢献してきた彼の作品群を展覧します。

榮久庵は、その研ぎ澄まされた美意識によって、茶碗から都市に至るまで、「人との（道具）」の究極の関係を築くことに注力してきました。醤油瓶など身近な懐かしさを感じる作品から新幹線の車両、ストリートファニチャーまで、人々の暮らしを紡ぐインダストリアルデザインの「美」をご鑑賞ください。  
《展示 47作品》



アストラムライン 1995年  
(新交通システム車両)

#### 第2章

##### 創造工房

榮久庵の作品は、彼の率いるデザイナー集団GKグループによって、具現化されています。ルネサンスの「工房」を彷彿とさせるようなその活動は、現代美術・建築に大きな影響を与えたドイツの美術建築学校「バウハウス」のように、デザインの「運動・事業・学問」を連環させるシステムをとっています。

本章では、自主研究の成果として、東日本大震災の被災地で実際に使用された災害支援空間システムや、博覧会で展示されるハイテク・オブジェ、インタラクティブな情報装置などを展示し、アートとテクノロジーが融合する近未来のデザイン世界を提言します。

《展示 21作品》



VMAX 2008年

#### 第3章

##### 美の彼岸へ

榮久庵は、「道具」が「道の具え」「道の具わりたるもの」という本来の姿を取り戻せるよう、「道」の東洋的思想と現代社会におけるデザインの「美」との融合を志向しました。この融合を榮久庵は「美によって具えは道を得て道具となり、人は道具を得てその道を悟る。」と説いています。

浄土宗僧侶でもある榮久庵は、「人と道具」が正しい関係を築き上げる場として「道具寺・道具村」を構想します。道具村の中心の道具寺には「道具千手観音像」を配置し、「池中蓮華」は、道具千手観音像に向かって修行を続けることで導かれる「人と道具」が共生する理想郷を表現しています。

現代の素材とテクノロジーによって形づくられた、「人と道具」のユートピアは、「ものづくりとアート」のこれからを私たちに提示しています。

《展示 6作品》



触れる地球  
(共同企画: Earth Literacy Program)  
2001年～

#### エピローグ

##### 「愛郷ひろしま」

榮久庵憲司は、インダストリアル・デザイナーを志した原点として、原爆投下後、廃墟と化した故郷広島の風景を挙げ、破壊されたモノたちを済度することを自分の道としたと述懐しています。

故郷広島、そして終戦後に住んだ福山、巡り会った人々に変わらぬ親愛の情を持ち、広島にもGKグループの拠点を置いています。

エピローグとして、榮久庵が愛するひろしまとの交流についてご紹介いたします。



池中蓮華 2011年 (インスタレーション)  
撮影: 富田真一

### 【主要作品解説】



#### 《しょうゆ卓上びん》 1961年

1950年代、世の中にはまだ「贅沢は敵」という雰囲気がありました。しかし榮久庵は、これからは明るく軽やかなものが必要だと考えます。たとえばこのしょうゆ卓上びん。中身が見えるガラス素材にカラフルなキャップでモダンなデザイン。しかし彼はそれだけではなく、ビンを持ち上げると自然に小指が離れ、使う姿が美しく見えることを意識したといいます。彼がどんなデザインにも日本的な美意識を大切にしていたことを感じさせるエピソードです。



#### 《QS72》 2010年

QS72は1種類のモジュールユニットによる組み合わせ可能な災害支援空間システム。モジュールシステムの採用により備蓄・供給・組み替えが容易になっていて、様々な形に応用が可能です。日本赤十字社との共同開発が始まったばかりで起こった東日本大震災では100ユニットが被災地に送られ、石巻赤十字病院で仮設診療施設やボランティアセンターとして活用されました。「もの」から「ひと」へ、デザインの役割に新たな扉を開いた一例といえるでしょう。



#### 《道具寺道具村構想》 2006年

道具を作る人は、道具の良いところ、悪いところを十分に吟味し、その矛盾を解決する義務があります。それが果たされていれば、不要な道具は作られないし、誤った使い方で人を傷つける道具が生まれることも少なくなるはず。榮久庵は、その象徴として「道具千手観音」という存在を考えました。道具千手観音像に向かって修行する道具寺を中心に、ものづくりに係わる人々が集まり「人と道具」が共生する理想郷を「道具村」として表現しました。

撮影：富田真一

## 【特別協力】 MAZDA DESIGN クルマはアート

会期: 11月18日(火)～12月23日(火・祝) 9:00-17:00 ※金曜日は19:00まで

会場: 1階ロビー 料金: 無料



### 展示概要

「MAZDA DESIGN クルマはアート」は、広島が生んだデザイン界の巨匠 榮久庵憲司氏に敬意を表し、広島から世界にモノ造りとデザインの価値を発信するマツダ株式会社が特別協力して同時開催するものです。

本展では、「魂動(こどう)-Soul of Motion」をテーマに、その歴史の中で培ってきた高い造形力によって作られたモデルやオブジェなど、生命感をカタチにするマツダデザインのアートな世界観を紹介します。

### 展示構成と内容

#### 「魂動デザインの世界観」

乗る人と心通じ合う、まるで生きているかのような生命感あふれるエモーショナルなカタチを目指して、日々創造に取り組む中から生まれたオブジェなどをご覧ください。

#### 「魂を吹き込む匠」

命を吹き込むことは鍛え上げられた匠の技があってできること。

マツダの匠が造形に取り組む姿の映像や、使用する道具、技を込めたサンプルをご覧ください。

#### 「命を吹き込まれたクルマたち」

魂動デザインを代表する作品「マツダ靱(SHINARI)」のデザインコンセプトモデル、新型「マツダロードスター」のデザインモデルや、クレイモデルなど普段目にすることのないモデルたちをご覧ください。

### 【特別協力】 広島市立大学芸術学部特別協力展示

会期: 11月18日(火)～12月23日(火・祝) 9:00-17:00 ※金曜日は19:00まで  
会場: 3階ロビー 料金: 無料

#### 展示概要

広島市立大学は1994年に開学し、榮久庵憲司先生には1998年大学院芸術学研究科を開設して以来、2013年までの長きに渡って、研究科開設の「道具論」をご担当頂き、優秀な学生の輩出に大変ご尽力を頂いてまいりました。

この度の広島県立美術館における「榮久庵憲司の世界展」の開催にあたり、先生に深く感謝と敬意の意を含め、特別協力展示のかたちで「榮久庵憲司の世界展」の会期に合わせて、卒業生、修了生の優秀作品を展示させていただきます。

この度の展示作品は、1997年より広島市立大学が芸術学部の卒業制作、修了制作の優秀作品を購入し、収集してきた作品の中から、特にデザイン分野、工芸分野の収蔵作品に絞って選定した15点の展示を予定しています。



能登景子 《Landscape》 2009年、インクジェット印刷プリント・バナークロス、350×200 cm、卒業制作



嶋田美緒 《一朵の雲》 2008年、  
乾漆・漆・麻布・和紙・顔料、18×73×48 cm  
卒業制作



青木聡子 《仕立てや筒衣ひらひら図屏風 六曲一隻》  
2011年、 紬・酸性染料・錫箔・油性ペン・筒描き・ロウ染、  
180×360×15cm 、修了制作

出品リスト ※リストはあくまでも予定であり、変更の可能性があります。

作家名	タイトル	制作年度	制作	技法、材料
佐故龍平	霞	1998	卒業制作	漆目金・銀・銅・赤銅・四分一
佐々木由美	Cell jewelry	2001	卒業制作	銀・ジェムストーン 合成宝石
菅由希	dot chair	2001	卒業制作	ステンレススチール
新谷亮	変身	2002	卒業制作	アクリル樹脂・紙
二野慶子	bloom	2004	卒業制作	ステンレススチール
佐川久美子	さかしま	2005	卒業制作	繻織・ラミー麻
戸川螢	あめのうた	2005	卒業制作	アニメーション
入江早耶	ナツメダスト	2006	卒業制作	消しゴム
西川剛弘	Up to Maestro	2006	卒業制作	CGアニメーション
舛岡真伊	Joy cui.daia.mag	2007	卒業制作	漆・顔料・木・金・銀・鉛・青・貝・卵
東佑美	chaplet	2008	卒業制作	真鍮・洋白・銀・ステンレス・七宝
嶋田美緒	一朵の雲	2008	卒業制作	乾漆・漆・麻布・和紙・顔料
能登景子	Landscape	2009	卒業制作	インクジェット印刷プリント・バナークロス
青木聡子	仕立てや筒衣ひらひら図屏風 六曲一隻	2011	修了制作	筒描き・ロウ染・紬・酸性染料・錫箔・油性ペン
高橋はるか	白物語「サッチャんの冒険」シリーズ	2012	卒業制作	版画技法エンボス・ハードカバー製本絵本・ケント紙・グレーボール

## 【媒体掲載用の画像提供について】

- ※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。
- ※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。
- ※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像が入り用の場合は、当館までお問い合わせください。
- ※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

## 【関連イベント】

### 講演会(広島県立美術館友の会共催)

日時: 11月23日(日・祝) 13:30-15:30(受付開始13:00)

#### 第1部

演題: 「わたしと広島」

講師: 榮久庵憲司(GKデザイングループ 会長)

#### 第2部

対談「明日のデザインと迎賓の心」

講師: 榮久庵憲司

上田宗岡(茶道上田宗箇流 家元)

会場: 地下講堂 聴講無料

定員: 200名(先着順)

#### 講演会講師略歴

##### 上田 宗岡(うへだ そうけい/上田宗箇流家元)

広島県立美術館のリニューアルに際して、榮久庵とともに広島県立美術館整備基本計画検討委員会のメンバーとなり、縮景園を配慮した永続性のあるデザインにすることなどを骨子とした計画の策定に携わった経験がある。また、榮久庵とは茶道の研究を通して親交がある。1945年生まれ。'68年 慶應義塾大学卒業。'72年上田宗箇流家元若宗匠を継承。'94年アジア競技大会広島・芸術展示委員長代行を務め、実行委員長として「アジアの心とかたち」を催す。'95年 上田宗箇流家元を継承。

### トークサロン

日時: 11月30日(日) 13:30-15:30(受付開始13:00)

演題: 「広島から世界に発信するデザイン」

講師: 前田育男(マツダ株式会社執行役員デザイン本部長)

山田晃三(GKデザイン機構代表取締役社長)

会場: 地下講堂 聴講無料

定員: 200名(先着順)

#### トークサロン講師略歴

##### 前田育男(まえだ いくお/マツダ株式会社執行役員デザイン本部長)

広島のものづくりを代表する企業マツダのデザイン本部長として数多くのヒット作を生み出し、マツダデザインの国際的なブランド化を牽引している。広島から世界に羽ばたくデザインを語るのにふさわしい。

1959年生まれ。82年にマツダ入社。横浜デザインスタジオ、カリフォルニアデザインスタジオで先行デザイン開発、本社デザインスタジオで量産デザイン開発に従事。RX-8、デミオなどを手がける。2009年から現職。CX-5、アテンザ、アクセラなどの開発、モーターショー、販社店舗デザインの監修など、「魂動(KODO)」デザインを牽引する。

##### 山田 晃三(やまだ こうそう/株式会社GKデザイン機構 代表取締役社長)

榮久庵の思想をもっとも理解している一人。アストララインの総合デザインをはじめ、今では広島の風景と言って良い多くのデザインに携わってきた経験は、デザインで広島を語るのにふさわしい。

1954年生まれ。1979年愛知県立芸術大学美術学部卒業。GKインダストリアルデザイン研究所入所。'92年GKとマツダ株式会社等との合併による株式会社デザイン総研広島に移籍。2005年株式会社GKデザイン総研広島専務取締役を経て代表取締役社長。2012年株式会社GKデザイン機構代表取締役。

## ギャラリートーク

日時: 11月21日(金)、11月28日(金)、12月5日(金)、12月12日(金)、12月19日(金) 11:00-  
11月21日(金)、12月5日(金)、12月19日(金) 18:00-

会場: 3階企画展示室

※入館券が必要です。直接会場にお集まり下さい。

## ウェブレポーター大募集

日時: 11月21日(金) 17:00-18:30

受付場所: 3階ロビー

対象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで本展のPRにご協力いただける一般の方

特典: 実施当日に限り、本展へご招待

## いちだい知のトライアスロン

日時: 12月13日(土) 14:00-

演題: 「榮久庵憲司の世界」

講師: 及川久男(広島市立大学教授)

会場: 地下講堂

定員: 200名(先着順)

※聴講無料(展覧会の入場券または半券が必要です)

## 【開催概要】

### 展覧会名称

榮久庵憲司の世界展

### サブタイトル

広島が生んだデザイン界の巨匠

### 開催クレジット

主催 広島県立美術館、テレビ新広島、GKデザイン機構、中国新聞社

後援 中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、  
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7

助成 エネルギア文化・スポーツ財団

協賛  広島県信用組合、 A-EI、イズミテクノ、サンポール、広島銀行、モデルクラフト、ワコーグループ、  
アンフィニ広島、JAバンク広島、セムコ・ホールディングス、セムコ・テクノ、大昌工芸、田中電機工業、  
広島駅弁当、広島県歯科医師会、広島市信用組合、広島デコラ、もみじ銀行

協力 広島高速交通、広島電鉄、オオアサ電子、ヤマハ発動機、静岡文化芸術大学(磯村研究室)、  
岩崎靖彦(仏師)、筒井義昭、デザイン誌「AXIS」

特別協力 マツダ、広島市立大学芸術学部

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko\_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 角田 新 事業推進課 山本恵子